

日銀事務所長の あさひかわ経済 あれこれ No.6

キャッシュレス化の進展と 現金需要の増加

はなく、専ら従来からあるクレジットカードか電子マネー。これまでもその気になればキャッシュレス決済はもっと利用可能でした。

私ごとですが、昨年の政府によるポイント還元事業が始まってから、キャッシュレス決済を利用する機会が増えました。当初はポイント獲得が目的で利用が増えたのですが、現金を扱う煩わしさから解放されてみると、これがなかなか快適です。同事業終了後の今でも、数日間は今も現金を使わないこともありま

す。といっても、私が利用するのは、QRコードなどの新しい決済手段で進協議会が行った調査に

様は、こうしたキャッシュレス化が進む一方で、現金であるお札の発行高が増えていることはご存知でしょうか。

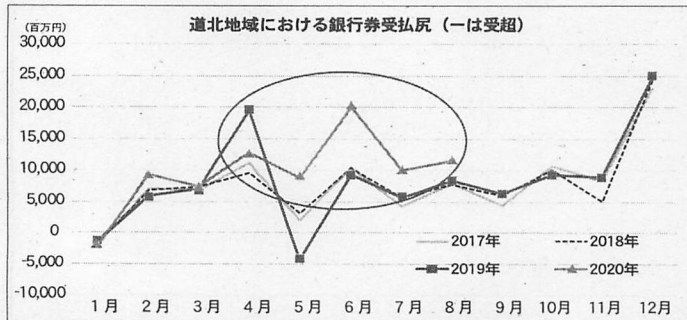
旭川市内で、どれくらいの銀行券が出回っているか、数えることはできませんが、代わりに日銀旭川事務所における銀行券受払高(金融機関と日銀との間で行う銀行券の受入と払出)をみると、最近では受入と払出の差(払出超過)が拡大しています。このことから、道北地域で出回っている銀行券も増えていることがわかります。

要の増加が併存するのは、今がこれまでの平常状態とは大きく異なるからです。キャッシュレス化の波は、今後も続くでしょう。一方で、現金需要の高い伸びは、いつまで続くのでしょうか。コロナワクチンが開発されるまで続くのか、それとも一時的なものなのか。一時的なものだとすると、どのタイミングで金融機関から日銀への還流が増える可能性があるのか。銀行券の発行に携わる者として、その変化をしっかりと見極めていきたいと思ひます。

お札は、正式には「日本銀行券」といいます。

旭川市内で、どれくらいの銀行券が出回っているか、数えることはできませんが、代わりに日銀旭川事務所における銀行券受払高(金融機関と日銀との間で

行う銀行券の受入と払出)をみると、最近では受入と払出の差(払出超過)が拡大しています。このことから、道北地域で出回っている銀行券も増えていることがわかります。



(注)2019年は改元に伴う10連休があったため、連休前の4月に払超幅が拡大し、連休後の5月に受入超に転化(出所)日本銀行旭川事務所

【大賀健司(おおがけんじ)】一九六五年神奈川県生まれ。青山学院大学法学部卒業。業務企画役、青森支店次長、政策委員会企画役、静岡支店次長を経て二〇二〇年に旭川事務所長に就任。



【大賀健司(おおがけんじ)】一九六五年神奈川県生まれ。青山学院大学法学部卒業。業務企画役、青森支店次長、政策委員会企画役、静岡支店次長を経て二〇二〇年に旭川事務所長に就任。